

- 学校名 八戸聖ウルスラ学院高等学校
- 発表者 工藤美陽、豊川雛乃、豊川巴良、小林みちる、小野寺智香
タウロ・アンドリュー・ジュリアン（計6名）
- テーマ 心も身体も健康に～多文化共生を進め、すべての子どもたちを守る～
- 発表概要

契機

八戸聖ウルスラ学院高校は留学生が多く、海外長期留学に行く生徒が多くいるため国際交流が盛んな学校です。そのような環境を生かして、「総合的な探究の時間」でSDGsの学習や模擬国連を通して世界について知る取り組みが行われています。しかし、「世界の問題」と聞くと、どうしても「他人事」に感じてしまうというジレンマがありました。そこで、高校2学年が各班に分かれて「青森県とSDGs」というテーマで調べ学習を行い、青森県で起きているSDGsの問題に着目したプレゼンテーションを実施しました。

問題×職業×SDGs

「誰かが解決してくれる」ではなく、「私たちが解決する」という考えを持つために、将来目指している（または、関心を持っている）職業に就いた場合に問題解決にどう携わることができるかを考えました。

虐待といじめ件数の増加

全国的に虐待もいじめ件数も増加していますが、青森県の過去最多を更新しており、深刻な状況です。これらの問題は、SDGsの項目「3・すべての人に健康と福祉を」・「質の高い教育をみんなに」が達成されていない状況だと言えます。

ウルスラ生だからこそその視点

虐待もいじめも私たちがすぐに解決できるものではなく、原因は複雑で多数ありました。そのため、「ウルスラ生らしい視点」を持ってこの問題に取り組むことにし、青森県南地域の特性を分析した上で「外国にルーツを持つ子ども」の存在に注目しました。

アンケート・インタビュー調査から見てきたもの

外国にルーツを持つというと、「英語力を鍛えて異文化理解のための豊富な知識が必要…」と私たちが考えていました。しかし、実際にお話を聞いてみると見てきた一番の問題は、「人手不足」でした。世界に目を向けて夢や希望を持つことはとても大切ですが、足元を見ていなかったことに気づかされました。

感想

解決策を探るために多くの方のご協力をいただきました。その結果見てきたものは、「解決の鍵は、私たち自身」というものでした。世界と田舎の関係について今後もっと深めていきたいです。